

飯山からスキーで全国、世界の舞台へ！

飯山から出場する選手の皆さん

飯山から全国大会、世界大会に出場される選手の皆さんをご紹介します。長野県、日本代表として出場される選手の皆さんの活躍をお祈り致します。(敬称略、飯山市在住・出身選手を掲載)

◆クロスカントリー 岡村龍太(城南中)、山崎宏(城南中)、服部真仁(城南中)、岡田龍樹(城南中)、高橋優太郎(城南中)、篠原春華(城南中)、石川優菜(城南中)、伊東咲幸(城南中)、小林寧音(城北中)、木内絢花(城北中)

◆第60回全国中学校スキー大会(2月7日～10日、野沢温泉村)
◆アルペン 宮澤優輝(城北中)、鈴木華夏(城北中)、山田さくら(城北中)

◆ジャンプ 村山未来翔(城南中)、坂本季花(城南中)

◆アルペン 平井颯馬(長野俊英高校)、高橋駆琉(長野俊英高校)、保坂宙(長野俊英高校)、高橋和花菜(日本大学)

◆クロスカントリー 小林千佳(長野日野自動車SC)、栗田茜(飯山市スキークラブ)、浦野裕之(飯山市スキークラブ)

◆ジャンプ 中村優斗(COOTSSC)、横川良太(白馬村スキークラブ)

◆2023 FIS ノルディックスキー世界選手権大会(2月22日～3月5日、スロベニア)
◆クロスカントリー 祖父江凜(早稲田大学)

長野県中学校総合体育大会 城南中学校リレーチームが 男子・女子ともに優勝！

1月19日に木島平村で行われた、第61回長野県中学校総合体育大会クロスカントリーリレーにおいて、城南中学校が男子・女子ともに優勝を飾りました。



城南中学校・城北中学校のクロスカントリー選手・コーチの皆さん

英高校)、堀川七桜(旭川明成高校)

◆クロスカントリー 大日方彩吹(飯山高校)、岡田滉樹(飯山高校)、小坂璃彩(飯山高校)、山崎悠(下高井農林高校)、佐藤笑瑠(中野立志館高校)、飯山高校男子リレーチーム、飯山高校女子リレーチーム

特別国民体育大会冬季大会
スキー競技会

(2月17日～20日、岩手県八幡平市)
◆アルペン 平井颯馬(長野俊英高校)、高橋駆琉(長野俊英高校)、保坂宙(長野俊英高校)、高橋和花菜(日本大学)

◆クロスカントリー 小林千佳(長野日野自動車SC)、栗田茜(飯山市スキークラブ)、浦野裕之(飯山市スキークラブ)

◆ジャンプ 中村優斗(COOTSSC)、横川良太(白馬村スキークラブ)

◆2023 FIS ノルディックスキー世界選手権大会(2月22日～3月5日、スロベニア)
◆クロスカントリー 祖父江凜(早稲田大学)



勢いよくスタートしていく選手たち。



会場には各校の応援ののぼりが掲げられ、応援する児童・教員、保護者の声が響き渡りました。

コロナ禍などで4年ぶりの開催 「第53回飯水小学校スキー大会」開催

2月3日、長峰クロスカントリーコースで第53回飯水小学校スキー大会が行われました。この大会は飯水小学校校長が主催。雪国ならではの冬のスポーツであるスキーを通じて、自然の美しさや厳しさを知ったり、他校の児童との友好の輪を広げたりすることなどを目的に開催されているもので、雪不足や新型コロナウイルスで、

イルス感染防止のため、今年大会が平成30年度(平成31年2月開催)以来、4年ぶりの開催となりました。

競技は、市内小学校7校と栄小学校(栄村)の5、6年生約300名の児童が参加。各学年2キロと3キロのコースに分かれ、懸命に日頃のスキー学習の成果を発揮していました。

地域全体で学校を支える活動が評価

東小コミュニティ・スクールに文部科学大臣表彰

令和4年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を、東小学校運営協議会(コミュニティ・スクール)が受賞しました。

東小学校コミュニティ・スクールでは、棚田保存会(三部の会)や菜の花さかせる会、東小育てる会等の皆さんと一体となった活動を通じて、学校運営の改善・強化のみならず、学校を核とした地域づくりにも尽力。これらの取り組みが他の模範と認められ、

今回の受賞となりました。

「コミュニティ・スクールとは「学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる『地域とともにある学校』への転換を図るための有効な仕組み(文部科学省資料より)」で、簡単に言うと「地域(学区内のすべての方々)が学校の運営に参画し、子どもの教育と一緒に担っていく」というものです。

市内小中学校には、それぞれ学校運営協議会または学校運営委員会が組織されており、



東小学校の活動の様子(菜の花の種まき)

登下校の見守り、教科学習やクラブ活動・ふるさと学習の支援、学校環境整備などに、地域の皆さんに参画していただき、子どもたちの成長に寄与していただいています。

飯山小学校 4年1組が リズムダンスで全国2位に！

飯山小学校の4年1組(チーム名:ふわふわ組)の児童の皆さんが、第10回全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクールの自由振付曲部門に参加。12月26日に最終審査結果が発表され、見事第2位となりました。

本コンクールは、学習指導要領にある「リズムダンス」について、撮影したダンスの動画で審査が行われました。ダンスの振り付けはすべて児童が考え、体育の時間と総合的な学習の時間を使い練習してきたという児童の皆さん。全国2位という結果に、「ダンスができるか不安だったけど、みんなでやればできると思った」「うれしすぎて言葉が出なかった」との感想が聞かれました。担任の清水先生は、「練習を重ねることで、ほかの教科に対する学習の意識も自然に上がった」と話していました。



飯山小4年1組の皆さん

学習権 シリーズ

たたくより、たたえ合おう。

飯山小学校長 中村 新治

飯山市民のみならず、今回タイトルとさせていただきます。言葉は、公営社団法人ACジャパンが2022年全国キャンペーンとして制作した「寛容ラップ」という広告のキャッチコピーです。とあるコンビニで、一見いかついお兄さんとおばあさんがラップでやり取りする姿が、今でもときどきテレビで放映されているので、この広告のことをご存じの方も多いいのではないのでしょうか。

この広告を初めて見たとき、これはメッセージがわかりやすいと思つて、さっそく飯山小学校の子どもたちにも校長講話の中で紹介させていただきました。この広告を通して、人と人とお互いに理解し合うことの大切さについて伝えたい、と思つたからです。

話は変わりますが、昨年末、本校の4年1組の子供たちが「第10回全国小中学校リズムダンスふれあいコンクール」で第2位に選ばれました。

4年生になり、クラスで話し合いを重ねてこのコンクールへの参加を決めてから、運動会でのダンスもオリジナルで考えるなど、本番に向けて担任と子どもたちが一つになって取り組んできました。その取組が全国2位という結果につながつて、子どもたちもはもとより、私も心が震えました。

4年1組には31名の子どもたちがいます。ダンスが好き、得意という子もいれば、いやだ、苦手だという子もいます。そんな子どもたちが、順調なときもスランプのときも支え合つて、練習を重ねてきたことにとっても価値があると思うのです。今では、クラス全員がダンスの楽しさやみんなで何かに取り組むことの素晴らしさを心から理解していると思います。

これこそが「たたくより、たたえ合おう。」の精神です。さあ、私たち大人もたたえ合う姿を子どもたちに見せていきましょう。